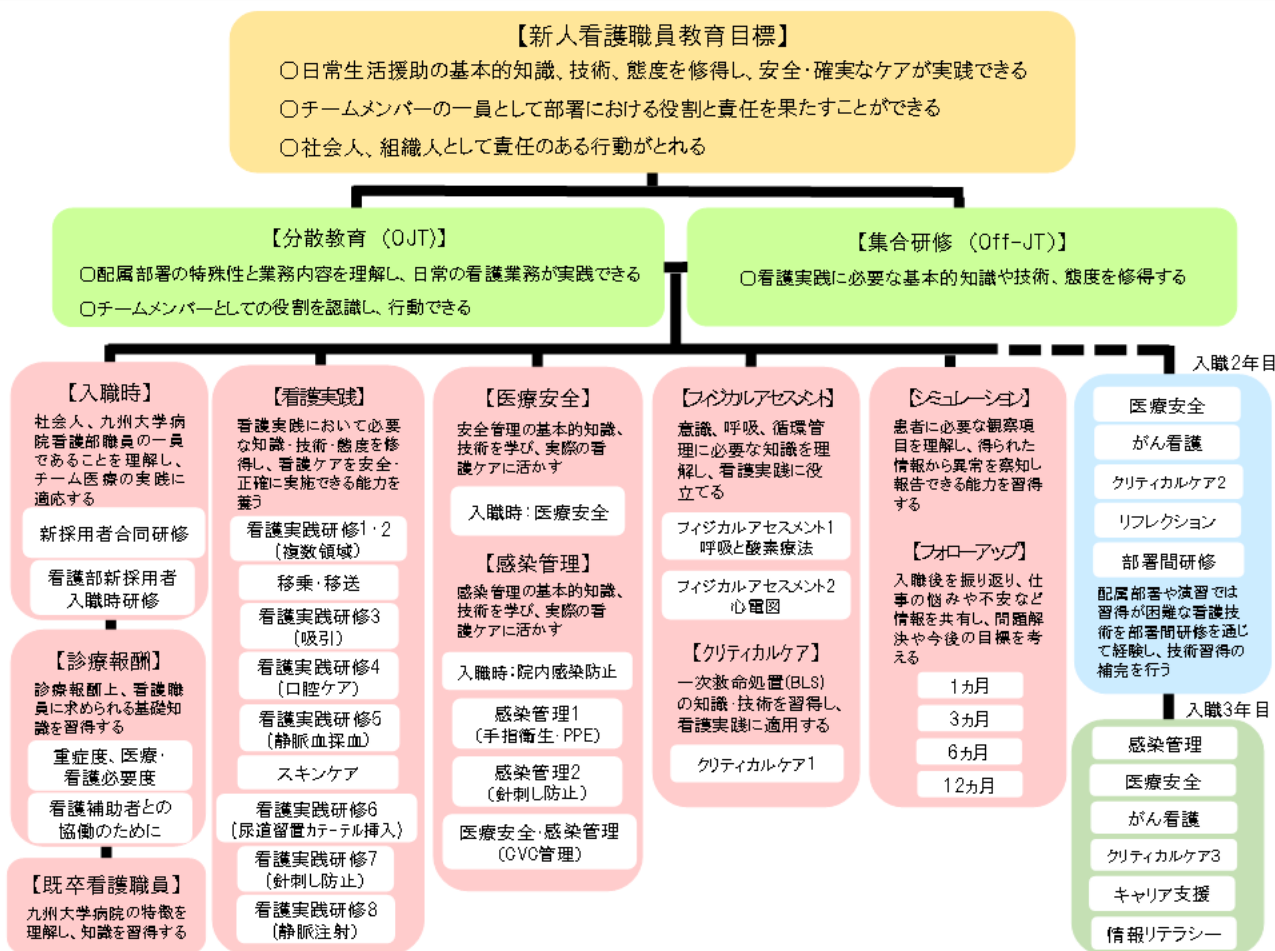


新人看護職員育成WG

新卒、入職2・3年目看護職員教育研修プログラム概要

令和7年度の新卒、入職2・3年目看護職員教育研修プログラム概要を以下に示す(図1)。



【図1】令和7年度 新卒、入職2・3年目看護職員教育研修プログラム概要

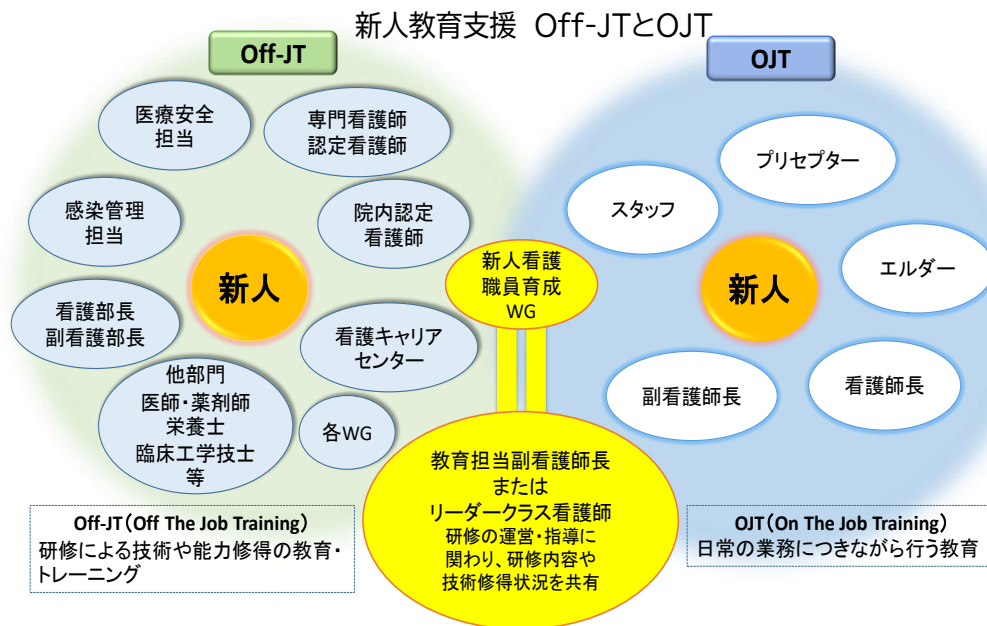
新人看護職員研修プログラムは、当院の2・3年目までに求められる基礎的な看護実践能力の定着を目指し、看護技術修得や教育の拡充の必要性など検討を重ね体系化してきた。2・3年目に対しても、平成24年度に持続的・段階的な看護実践能力向上を支援できるよう研修を拡充した。

新人看護職員教育として、分散教育と集合研修それぞれの特徴を活かした支援を行っている。分散教育では、「スキンケア」「医療安全・感染管理 (CVC 管理)」など、各部署の教育担当者や院内認定看護師などを指導者とし、指導案をもとに各部署の特性に合わせた OJT を実施している。集合研修では、Web 等を活用した事前学習を実施した上で、各部署の教育担当者等の支援を受けながら新人看護職員自身が個々の研修目標を立案し研修に臨むことができている。さらに、研修後には集合研修での学びが各部署での看護実践につながるよう各部署の教育担当者を中心に部署全体で支援を行っている。また、新人看護職員の職場適応や精神的支援を目的として、年に4回フォローアップ研修を実施した。研修では、病院職員健康管理センターの産業保健師とともにメンタルサポートに関する講義、

演習、グループワーク等を行った。さらに、社会人基礎力を活用した自己評価を取り入れ、部署の教育担当者やプリセプターからのフィードバックを受ける機会を設けることで、自己の成長や課題を的確に捉えて目標に向けて前向きに取り組めるよう支援を行った。新人看護職員の月別の教育プログラムを以下に示す（図2）。教育WGはこの教育プログラムに沿って、集合研修（Off-JT）とOJTの連動を図るための橋渡しとしての役割を担っている。（図3）。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|---|---|--|---|--------------------------------------|---------------|---------------------------|---------------------------|-----------------------------------|-----|----|----------------------------|-----------------------|---------------|
| 分散教育 (OJT) | 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法 | フィジカルアセスメントと心電図 | 重症度、医療・看護の重要性 | スキンケア | | 看護実践 針刺し防止 | 医療安全 感染管理 CVC管理 | | | | | 1年以内に実施 ・看護補助者との協働 | |
| 各部署の新人教育計画、新人看護職員の個人目標に沿ってプリセプターを中心に部署全体で新人を指導・育成 | | | | | | | | | | | | | |
| 集合研修 (Off-JT) プログラム | 看護部新採用者入職時研修 看護部新採用者へ同研修 | 看護実践1 輸液管理・接遇 ・感染管理1・2 ・急変対応1・2 11月フロンティアアップ 移乗・移送の技術 | 看護実践2 輸液管理 ・バイタルアセスメント1呼吸 ・口鼻吸引 ・血圧吸引 12月フロンティアアップ 既卒看護職員研修 | 看護実践3 クリティカルケア研修1 心臓蘇生法・一次救命処置 | 看護実践4 口腔ケア | 看護実践5 尿管尿造置 カテーテル挿入 | 看護実践6 尿管尿造置 カテーテル挿入 | 新卒6か月フロンティアアップ シミュレーション研修 状況把握 | | | 看護実践7 急脈注射認定看護師 育成研修 | 12月フロンティアアップ | |
| 自己研鑽 | 研修内容をeラーニング教材で振り返り学習 看護実践、シミュレーション・トレーニング ポートフォリオによる学習プログラムの可視化 | | | | | | | | | | | | |
| 看護技術修得評価 | 入職1年目 入職時チェック (自己評価) | | | | | 6か月 チェック (自己評価) | 看護技術到達度の確認・分析 | | | | | 12か月 チェック (自己評価) | 看護技術到達度の確認・分析 |
| | 入職2年目 | | | | | 18か月 チェック (自己評価) | 部署間研修 | | | | | 24か月 チェック (自己評価) | |

【図2】令和7年度 新人看護職員教育プログラム



【図3】Off-JT と OJT における教育 WG の役割

令和7年度 新人看護職員育成 WG 活動

新人看護職員育成ワーキンググループ（WG）は、各部署1名以上の副看護部長およびクリニカルリーダーⅢ以上のリーダー看護職員から構成され、看護部教育委員会の下部組織である「教育WG」を兼任し、自施設の教育プログラムを支援する役割を担っている。今年度教育WGでは、以下の2つの目標に沿って、活動を実施した。

【活動目標】

1. 新人看護職員育成プログラムの実施・評価を行う
2. 研修での学びが各部署での看護実践や看護職員教育に活かされるよう研修前後の受講者支援に取り組む

【活動内容】

1. 新人看護職員教育プログラムの実施・評価を行う
2. 新人看護職員が基礎看護技術を修得できるように、看護手順等を見直し、整備する

令和7年度新人看護職員研修 実施状況

4月【入職時研修】

看護部長による看護部の概要と新採用者に望むことなどの講義、副看護部長による「職業人としての責務」に関する講義など、看護専門職業人として中核をなす看護倫理観の醸成に役立つ講義を集合研修に取り入れ、大学病院職員としての人間性、社会性を自覚できる内容で実施した。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 期間 |
|------------|----------------------|---|--------------------------|-----|
| 4月 1～4日 | 新採用者合同研修 看護部入職時研修 | ・九州大学病院・看護部の組織と役割を理解し、組織の一員である自分の果たすべき役割を理解する ・社会人としての基礎的知識・態度を身につける | ・看護部長 ・副看護部長 ・看護部長 | 4日間 |

4月【看護実践研修1・2】

入職後早期に習得が求められる感染管理、看護記録、輸液管理の知識・技術・態度について集合研修を実施した。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|--------------|---|------------------------------------|--|----------------------------------|
| 講義 4月4日 | 講義 ①接遇 ②感染対策の基本 ③血糖測定とインスリン | 基本的看護技術を身につけ、看護ケアを安全・正確に実施できる能力を養う | ・質担当副看護部長 ・記録委員会 ・感染管理認定看護師 ・院内認定看護師（感染管理） ・新人看護職員育成WG | 集合研修 2日間 講義：60分 演習：130分 |
| 演習 4月7,8日 | 演習 ①感染管理1・2（手指衛生・PPE、 針刺し防止） ②看護記録・電算研修 ③輸液管理 | | | |

4月【移乗・移送の技術】

受講者は、演習で患者役を体験し、患者への声掛けの重要性や看護のポイントについて考えることができた。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------|----------|--|------------------------|-------------|
| 4月18日 | 移乗・移送の技術 | 車椅子、ストレッチャーへの移乗や移送の方法について、安全に実施できるよう知識と技術を習得する | ・医療安全担当 ・新人看護職員育成WG | 集合研修 90分 |

4月【1ヵ月フォローアップ研修】

病院職員健康管理センターの産業保健師と協働し、シナプソロジー体操やグループワークを行った。他部署の同期と現状や悩みを共有することで、不安の軽減に繋がっていた。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------|------------|--|------------------------|--------------|
| 4月30日 | 1ヵ月フォローアップ | 看護職として、心身ともに健康に過ごすためのセルフメンテナンスができるようになる 社会人基礎力を上手に使い、周囲と円滑なコミュニケーションが取れるようになる | ・教育担当 ・病院職員健康管理センター | 集合研修 120分 |

5月【医療安全】

入職後1ヵ月の経験をもとに部署でよく使用される薬剤をイメージしながら考えることができた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|------|-----------------------|--|------------------|-------------|
| 5月9日 | 薬剤の基礎知識 麻薬等の管理について | 医療現場で使用している薬剤の基礎知識や医薬品の管理について理解する 特に注意すべき薬剤について知り、注意すべき理由が分かる | ・医療安全管理部 ・薬剤部 | 集合研修 75分 |

5月【フィジカルアセスメント1、看護実践研修3】

酸素療法器具やシミュレーターを使用したことで患者の気持ちへの配慮や、手技時の声かけをより実践的に学ぶことができていた。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|----------|---|---|--|--------------|
| 5月29、30日 | フィジカルアセスメント1 「呼吸の観察と酸素療法」 看護実践研修3 「口腔内・鼻腔内吸引、 気管吸引」 | 呼吸の観察ポイントを理解し、酸素療法や口腔内・鼻腔内吸引、気管吸引を安全に適切に実施するための知識・技術を習得する | ・急性・重症患者看護 専門看護師 ・院内認定看護師 (クリティカルケア、 呼吸ケア) | 集合研修 100分 |

5～6月【フィジカルアセスメント2】

検脈や全身状態の観察の重要性について根拠とともに学ぶことができた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|----------------|---------------------------------|--|------------------|-------|
| 5月13日 ～6月8日 | フィジカルアセスメント2 「心電図の基本と危険な不整脈」 | 循環の観察方法について正しく理解する 心電図の基礎と致死的不整脈に関する知識を習得し、心電図モニター装着患者の看護実践に活かすことができる | 慢性心不全看護認定 看護師 | Web学習 |

6月【クリティカル研修1】

様々な事例のシミュレーションを通し、質の高い心肺蘇生の技術を学ぶ機会となった。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|----------|------------------|---|---|--------------|
| 6月12、13日 | 心肺蘇生法： 一次救命処置 | シミュレーション学習を通して、一次救命処置(BLS)を理解し、患者の急変時に活かす | ・救急看護認定看護師 ・院内認定看護師 (クリティカルケア、救急看護) | 集合研修 100分 |

6月【重症度、医療・看護必要度】

動画視聴後、知識確認テストを受験しフィードバックを受けることで、部署の特性や患者をイメージしながら振り返ることができ、理解を深めることができた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|----------|--------------|---|----------------------|--------------|
| 6月2日～24日 | 重症度、医療・看護必要度 | 重症度、医療・看護必要度の正確な評価を実施するための基礎的知識や方法を習得する | ・業務委員会 ・業務WG副看護師長 | Web学習 テスト |

6月【3ヵ月フォローアップ研修】

グループワークで悩みや不安について話すことができ、リフレッシュの機会となっていた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------|------------|---|------------------------|----------|
| 6月17日 | 3ヵ月フォローアップ | 入職後3ヵ月を振り返り悩みや不安を話し合い、情報共有し、問題解決の方法を考える | ・教育担当 ・病院職員健康管理センター | 集合研修 90分 |

6～8月【スキンケアの基礎】

自部署の患者の特徴を踏まえ、テープの貼り方・剥がし方や被膜剤の使用、褥瘡周囲の皮膚洗浄、保湿剤・撥水剤の塗布方法などを学ぶ機会となった。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|-------------|----------|--|---|--------------|
| 6月23日～8月21日 | スキンケアの基礎 | スキンケアの基本を学び最新ですぐに実践できる予防的スキンケアの技術を習得する | ・皮膚・排泄ケア認定看護師 ・褥瘡担当看護師 ・院内認定看護師（褥瘡ケア） | Web学習 OJT |

7月【看護実践研修4】

歯科医師・歯科衛生士による専門的な技術指導に加え、看護の視点を交え、患者の安全・安楽を考慮した口腔ケアについて学ぶ機会となった。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|------|------|---------------------------------------|---|----------------------|
| 7月1日 | 口腔ケア | 口腔ケア支援の方法を知り、適切で安全な口腔ケアの基本的知識・技術を習得する | ・摂食嚥下障害看護認定看護師 ・摂食嚥下訓練及び口腔ケア支援チーム構成員 ・歯科衛生士 | Web学習 集合研修 70分 |

7月【看護実践研修5】

駆血帯を巻く練習や採血の見学を行った上で研修に臨み、積極的に質問し学びを深めることができていた。研修後は、各部署で実技評価表をもとにシミュレーターを用いた演習と実技テストを実施し、安全で正確な看護実践に繋がるよう教育担当者を中心に支援を行った。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|----------|-------|--|------------|-----------------------|
| 7月23～25日 | 静脈血採血 | 看護実践において必要な知識・看護技術を身につけ、安全・正確に実施できる能力を養う | 新人看護職員育成WG | Web学習 集合研修 120分 |

9月【看護実践研修6】

シミュレーターを用いて演習を行い、患者への侵襲や羞恥心への配慮、感染管理の必要性など、実践の場面での具体的な注意点について学ぶ機会となった。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|--------|----------------|---|------------------------------|-----------------------|
| 9月3～5日 | 尿道留置カテーテル挿入・導尿 | 尿道留置カテーテル挿入・管理、導尿を安全に実施するための基本的知識・技術を習得する | ・感染管理認定看護師 ・院内認定看護師（感染管理） | Web学習 集合研修 130分 |

9月【看護実践研修7】

針刺し防止の視点で、皮下注射・筋肉内注射の技術について学ぶことができた。患者の特性など、OJTの利点を活かした研修を実施することができた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|-----------------|-----------------------|----------------------------------|--|--------------|
| 8月26日 ～10月3日 | 針刺し防止 (皮下注射・筋肉内注射) | 看護実践において必要な知識と安全・正確に実施できる技術を習得する | ・院内認定看護師(感染管理) ・部署の感染管理担当看護師 ・新人看護職員育成WG | Web学習 OJT |

10月【6ヵ月フォローアップ研修】

グループワークでは社会人基礎力を参考に今日からできる行動を考え、具体的に前向きな行動計画を立てることができていた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------|------------|--|------------------------|---------|
| 10月2日 | 6ヵ月フォローアップ | ・入職後6ヵ月を振り返り情報共有し、今後の目標を考える ・医療安全の視点を学び、インシデントが起りやすい状況をふまえ、具体的な事故防止対策が実践できる | ・教育担当 ・病院職員健康管理センター | 集合研修90分 |

10月【シミュレーション研修】

シミュレーションを通し、患者の状態を意図的に観察し、その結果をもとにアセスメントする重要性を学ぶことができた。SBARを用いた報告の演習では、情報を整理して伝える有用性を実感したとの意見が多く、報告に対する意識の向上が見られた。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------------|----------------------|---|-------------|--------------|
| 10月 7～9日 | シミュレーション研修 (状況把握) | 患者に必要な観察項目を理解し、得られた情報から異常を察知し報告できる能力を習得する | ・新人看護職員育成WG | 集合研修 120分 |

10～12月【医療安全・感染管理（CVC管理）】

「中心静脈カテーテルの安全管理」の動画講義はWeb視聴し、各部署の指導者により血流感染防止対策に関する講義とCVCドレッシング交換の演習を行った。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|-------------------|----------------------|---|--|--------------|
| 10月14日～ 12月14日 | 医療安全・感染管理 (CVC管理) | ・CVCの安全な管理について知識を得る ・血流感染予防の学習を通してCVC留置中の管理における基礎知識やCVCドレッシング交換の正しい手技を習得する | ・医療安全管理部 ・院内認定看護師(感染管理) ・部署の感染管理担当看護師 ・新人看護職員育成WG | Web学習 OJT |

1月【看護実践研修8】

講義から演習の一連の流れの中で、静脈注射に関する重要な知識と実際の手技との関連を結び付けて習得し、知識を定着させることができた。



| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|---|---------------|---|---|------------------------------------|
| 講義 1月8、9日 演習 1月22、23日 筆記試験 1月26日 | 静脈注射認定看護師育成研修 | 静脈留置針を中心に静脈注射に必要な知識・技術を習得し、安全で確実な看護実践能力を身につける | ・医師 ・薬剤師 ・感染管理認定看護師 ・医療安全担当 ・静脈注射認定看護師育成WG ・新人看護職員育成WG | 講義視聴 1日 演習 90分 筆記試験60分 |

2月【12ヵ月フォローアップ研修】

看護技術修得度の結果や社会人基礎力の自己評価を踏まえ、1年間で成長できた点や2年目に向けて自己の課題や目標についてグループワークで考えることができていた。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法・期間 |
|-------|-------------|--|------------------------|----------|
| 2月20日 | 12ヵ月フォローアップ | ・入職後1年を振り返り、情報共有する ・自己の課題を明確にし次年度の目標を考える。また後輩を受け入れる心構えを持つ | ・教育担当 ・病院職員健康管理センター | 集合研修 90分 |

4～9月【輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法】

輸液・シリンジポンプ指導者が部署で計画した研修スケジュールに沿って、使用頻度や使用薬剤、インシデントの傾向などを踏まえてOJTを実施した。

| 日程 | 研修名 | 目的 | 講師・指導者 | 方法 |
|----------------|-------------------|--|-------------------------------|-----|
| 4月1日 ～9月30日 | 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法 | 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法が安全かつ正確に実施できるように知識と技術を習得する | ・医療機器操作強化WG ・輸液・シリンジポンプ指導者 | OJT |

1年間で実施【看護補助者との更なる協働のために（全10回）】

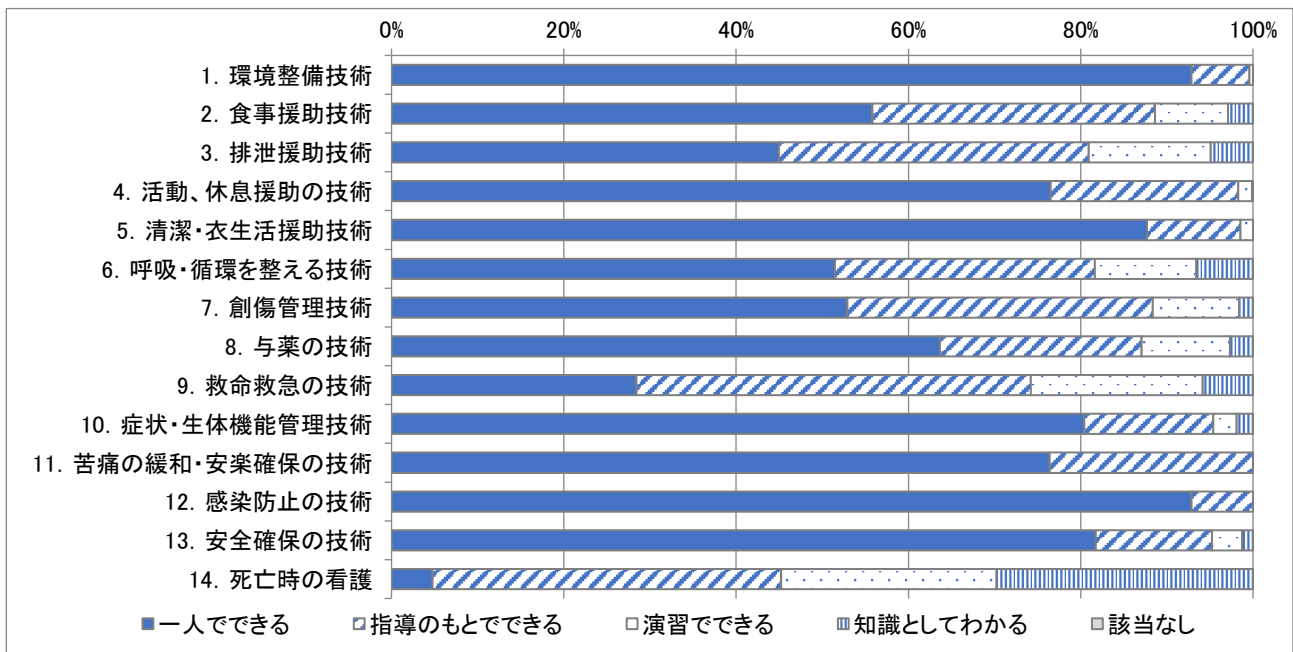
| 日程 | 研修名 | 目的 | 方法 |
|------|------------------------|---|-------|
| 1年以内 | 看護補助者との更なる協働のために（全10回） | 「看護補助体制充実加算」をふまえ、看護補助者との役割分担や看護師の指示責任まで、看護職と看護補助者がチームとして安全で質の高いケアができるよう学ぶ | Web学習 |

令和7年度 看護技術修得度結果

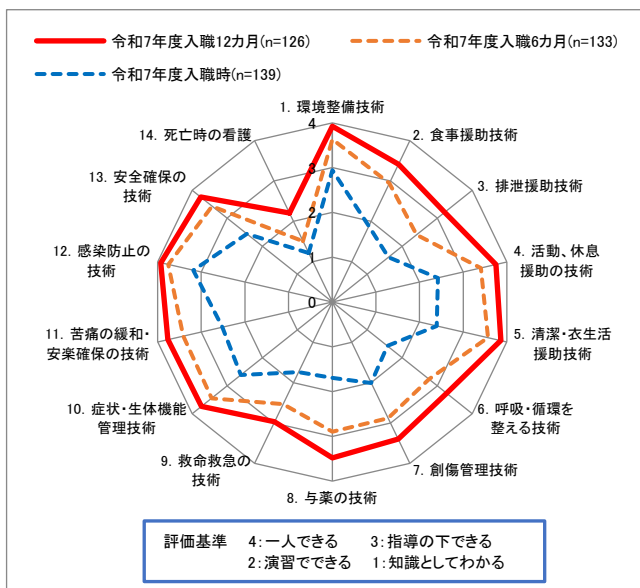
毎年、新人看護職員の入職時・6ヵ月・12ヵ月・18ヵ月・24ヵ月の看護技術修得状況を調査している。14領域99項目で構成し、修得状況をナースナビゲーションシステムで管理することで、新人看護職員全体と自己の成長を可視化できる。

6ヵ月・12ヵ月はプリセプターや部署の教育WGメンバーが関わり評価を行う。結果は、看護部教育プログラムの新人看護職員研修の妥当性を検討する資料として、また自己研鑽や部署内教育へ反映させキャリア形成支援として活用している。

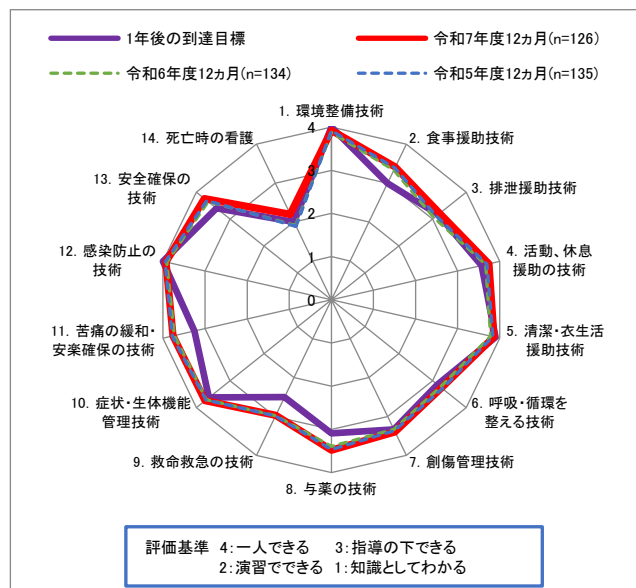
全体の平均値で比較した結果、12ヵ月時点では、ほぼすべての領域において修得度の得点は上昇し、1年後の目標値まで到達できていた。年度別の比較においても、過去2年との大きな差はなかった(図1-3)。部署の特性に応じて看護技術修得を進めていくために、経験が不十分な看護技術に関しては、シミュレーション・トレーニングの活用や実践の機会の確保などのOJTにより、確実な修得を支援していきたい。



【図1】令和7年度 新人看護職員 領域別看護技術修得度 (12ヵ月)



【図2】令和7年度 入職後1年間の修得状況の比較



【図3】修得度の年度比較と1年後の到達目標値との比較

広報活動

看護キャリアセンターホームページで新人看護職員育成 WG の活動を報告した。



目標の評価と今後の課題

新人看護職員育成 WG では「新人看護職員の育成を継続し、確実な看護実践能力の定着を図る」ことを目的として、2つの目標を掲げ、活動を行った。

目標1「新人看護職員育成プログラムの実施・評価」については、教育 WG が運営主体となる輸液管理研修、静脈血採血研修、シミュレーション研修などを中心に、研修目標の達成に向けた指導案の修正や運営スケジュールの検討を行った。受講者の研修評価ではいずれの研修も目標達成度の肯定的回答は70%以上を占めた。新人看護職員の看護技術修得度は例年通り到達レベルまで向上しており、研修が確実な看護技術修得に寄与したものとする。

目標2「研修前後の受講者支援」については、新人看護職員に限らず、2～3年目看護職員および専門研修を受講する看護職員に対し、研修前の動機付けや、研修後の実践機会の調整等を行い、教育 WG として集合研修と OJT を繋ぐ役割を果たした。専門領域研修では、今年度より目標到達確認の対象研修を拡大し、18の研修で研修後1～2か月時点での行動変容について、教育担当者を中心とした指導者による客観的評価を実施した。教育担当者からは「研修の内容を知り、部署でどのように実践の機会を作るか、考えることができた」など、肯定的な意見が聞かれ、研修での学びを看護実践の定着につなげる機会となったと評価する。

今後もこれらの支援を継続し、部署全体で新人看護職員を支援する体制づくりを推進するとともに、安全で質の高い看護が提供できる臨床実践能力を備えた新人看護職員の育成に尽力していきたい。